

≪第 60 号≫「レジ袋辞退調査から」

奥田 明子(東京都地域消費者団体連絡会 代表委員)

今年も、レジ袋 NO デーにちなんで、15 回目のレジ袋の辞退調査を実施しました。有料店が増えて、辞退率の平均は約 48%。有料店と無料店の差は如実ですが、無料店でも有料店に引けを取らない場合も多数あり、店の姿勢による差と、地域による差がはっきりしてきたといえそうです。同じ系列の店舗の立地地域の差は何故なのか、店長の経営の差もあるでしょうが、地域の住民の意識の差によるところが大きいのではとと思っています。

豊島区や文京区のような意識の高そうな区で辞退率が低いのは、店のせいだけでなく、住民および行政の努力不足だと思えます。期間中JRの三鷹駅を通ったところ、駅内の南北を通る大通りにマイバツクの横断幕が大きく張られていました。あいにく武蔵野市の調査結果は手に入っていないので、効果のほどは不明ですが、市と住民と店舗の三者が協力しないことには、現在世界の先進国で進んでいる「レジ袋の使用禁止」という難題に、取り組むことさえ、夢のまた夢になりかねません。

海の汚れが深刻で、その原因のひとつにレジ袋もあげられています。薄いレジ袋は海に放されると素早く分解して、汚染物質を吸収しやすいマイクロプラスチックとなり、プランクトンから小動物へと汚染物質が濃縮されて、鯛や小魚をとおして、私たちの口に入っている状況を聞かされると、レジ袋が有料だの、辞退率が50%だの悠長なことをいっている場合ではないのだとあせります。

省エネが目的の甘い状況ではないことを、深刻に受止めて、全面禁止に至る道を早急に模索しなければならぬということです。

■レジ袋 NO デー

平成 14 年東京都が 10 月を「環境にやさしい買い物キャンペーン」月間とし、特に 10 月 5 日をレジ袋 NO デーとして買い物バッグの持参を呼びかけ、この取り組みをきっかけとして誰もが環境問題を考えで行動するように働きかけをすることになりました。